http://decfamily.p1.bindsite.jp/2012/

We 15R

No.024　12/05/18

鉄腕アトム

　現代文分野の二つ目の教材は、「サイボーグとクローン人間」である。そろそろこの教材に…と書いていたら、●●先生が、

「15R は金曜日で授業がつぶれていて、「羅生門」がまだ終わらないよ。「サイボーグ」試験範囲に入れる？」

などと寝言！を言っているので、

「「サイボーグ」なんて２時間もあれば何とかなるよ。「羅生門」をしっかりやって、「サイボーグ」は超スピードでこなしなさい！」

と叱咤激励？したところである。（当然のことながら、ほぼ虚構である…笑）

　それはともかく、この評論、ロボット研究とクローン研究を対比させながら筆者が主張を展開していくもので、その対比の関係をしっかりと読みとることが重要であるが、君たちは「ロボット」というと、一体何を思い浮かべるのだろう？

　エヴァであろうか？　ガンダム？　それともスターウォーズのC-3POとか？　ホンダのアシモ？　あるいはアニメのウォーリー？「トランスフォーマー」とか「リアル・スティール」なんてのもあった。そういえば、ドラえもんはネコ型ロボットであったなぁ…など、次々と名前が出て来るに違いない。

　ちなみに、お父さん、お母さんにも聞いてみよう！　「鉄人28号」（古い！）、「マジンガーＺ」（かなり古い！）など、君らの想像を絶する世界が展開するかも知れないが（笑）、なんといっても思い出されるのは、手塚治虫の「鉄腕アトム」なのである。（2009年にはハリウッドで「ATOM」としてリメイクされ、日本で公開された時の吹き替えは上戸彩が担当した…）

＊

　この「アトム」、2011年３・１１の後だったら、果たして公開されていただろうか？いや、リメイクされていただろうか？

　もう気づいたと思うが、「アトム」は原子力の比喩に他ならない（アトムの妹はウランちゃん）。手塚治虫でさせ、原子力に未来の夢を託していたことが想像されるのだ。

　第二次世界大戦の際、日本は唯一「核」の惨禍を味わったにもかかわらず、戦後それを「原子力」と名づけ直すことで夢を託した。いや、「被爆国だからこそ、それを平和利用するのだ」という、反転した強い思いを抱いたとも言える。現在問題視されているいわゆる「安全神話」の根底にも、この思いがあるに違いない。

　徹底的にやられた時、それを逆手にとってでも発展に結びつけようとした先人たちの思いを、そして、それを実現して現在の日本の繁栄（その根本的な評価は置くとして…）を築いた先人たちの思いを、今簡単に踏みにじることができるのだろうか？

　東電や原発を批判するのは簡単である。同時に、段階的に脱原発を目指すべきなのも明かである。しかし、原発の背景にあった思いを無視することも、また許されないことなのではあるまいか。